

シングルマザーの就労支援

専用求人サイトや無担保融資

経済的自立を後押し



女性の相談に乗る「リンクリンク」の神朋
代副代表(右)=名古屋市

シングルマザーの就労支援の輪が広がってきた。名古屋市の企業は専用の求人サイトを開設。無料の相談員が面接にも付き添い、入社に結びつけている。無担保で就労のためのお金を貸す団体も現れた。シングルマザーは所得の低さが課題になっているケースが多く、子どもの教育格差を生むとも指摘される。関係者は「母親が経済的に自立できるように背中を押ししたい」としている。

求人サイトを開いたのは、シングルマザーへのサポート事業を手掛ける「リンクリンク」。

昨年6月の開設から同12月までに約100社から求人情報が寄せられ、相談した母親約50人のうち、30人ほどが就職を決めた。登録すれば無料の相談員が希望に合った求人情報を紹介、応募の手続きもしてくれたりする。利用者からは「これまで面接の度にシングルマザーだと説明するのがつらかったが、自分から言わなくてよく

精神的な負担が少ない」との声が上がっているという。

神朋代副代表は「離婚で自信をなくしていたり、長く働いていないから不安になったりしている人が多い」と分析。「子どものために頑張りたいという母親と、人材不足の小企業をつなげたい」と話す。

政府によると、母子世帯は2000年の86万7千世帯から15年には106万3千世帯に増加。15年の平均年間収入は348万円、子どもがいる世帯全体の707万円の半分程度にとどまる。

生活に苦しむ人に無担保で少額を融資するバンクラデシユのグラミン銀行の日本版となる「グラミン日本」は、昨年9月から日本での活動を始めた。シングルマザーも対象で、連帯責任を負う5人一組の互助グループをつくり、そのうち2人にま

ず最高20万円ずつ貸し出す。その返済状況を見ながら残り3人の融資を判断する。使い道は就労や起業の経費に限る。

菅正広理事長は「年収が低い家庭の子どもたちに教育資金が回らず、貧困が連鎖する社会構造がある。自己責任だと片付けるのではなく、社会の問題として取り組むべき時期だ」と訴えている。